



千葉動力車労働組合

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90・4・2 No. 3191

3・31 清算事業団 弾劾通告 首切り

＝ハンドル・ハンマーを取り戻すまで闘う＝

**事業団全員解雇攻撃粉碎
不当処分策動を許すな**

4・8 動労千葉総決起集会

国鉄清算事業団当局は三月三十一日、動労千葉十二名をはじめ、全国一五〇名の事業団の仲間に対し不当な解雇を強行した。

動労千葉は、この法すら無視した大量不当解雇強行を、煮えたぎる怒りをもって弾劾する。

採用差別は不当労働行為と断定し地元JRへの採用を命令した地労委の救済命令を踏みにじり、「ひとりの労働者も路頭に迷わせない」という中曽根元首相の公約も「あれはウソでした」とばかりに、紙切れ一枚で二度にわたって首きりを強行したのである。この暴挙は、実に一九六〇年の三井三池炭坑の首きり以来の最大の大量不当解雇攻撃である。

三十一日朝、清算事業団当局は三年間一日たりとも欠かすことなく刻みこまれた怒りの「収容所」をそそくさと片づけ、看板を壊しはじめた。

三十一日朝、清算事業団当局は三年間一日たりとも欠かすことなく刻みこまれた怒りの「収容所」をそそくさと片づけ、看板を壊しはじめた。

三十一日朝、清算事業団当局は三年間一日たりとも欠かすことなく刻みこまれた怒りの「収容所」をそそくさと片づけ、看板を壊しはじめた。

解雇者は1051人

各地で抗議集会、混乱も

解雇発令書受け取り拒否

国労 反発 大型争議へ

国鉄清算事業団

(3・30 JR本社前)

解雇強行へ怒りのシュプレヒコール

清算事業団、JR本社を弾劾する
250名の動労千葉組合員

いいようのない怒りが、おさえた憤りがこみあげてくる。「敗けてたまるか」「何年、何十年かかるかと闘う」「この非道を生涯忘れない」とあらためて決意をうちかためる。「四月以降もハンドル・ハンマーをとりもどすまで闘う」と新たな決意を固めている事業団の仲間がガッチリと応えきろうではないか。

一九八七年四月一日をもって開始した清算事業団労働者の原職奪還の闘いは、闘う国鉄労働運動解体攻撃と真っ向から対決するものとして闘いぬかれてきた。

そして、事実が示しているように動労千葉は、この三年間被解雇者、事業団の仲間、JR本体の組合員が三位一体となって、当局・JR総連連革マルの結託した異常な労務支配に屈せず、必死で闘い前進してきた。

特に昨年十二・五、一・一八本線乗務員ストを闘いとり、ついに三月十八日からあらゆるスト破壊を粉碎して八四時間ストを実現し、国労の七二時間ストとともに、ついに当局とJR総連の「四・一分



割・民営化体制」に強烈な打撃を与えてきた。分割・民営化三年目に「四・一」体制の根底的打倒をかけた総反撃への転換を待ちとり、九〇年代労働運動の戦闘的再生への突破口をきりひらくことに成功したのである。

危機にかられた政府・清算事業団・JR当局は、そうであるがゆえに、違法・不法を承知のうえで一五〇〇名の仲間の首きり、追放に乗り出し、居直っているのだ。こうした凶暴で血も涙もないやり方に、今全国の労働者・人民は驚き、怒り、国鉄労働者の今後の闘いに注目している。

二〇〇名余の尊い仲間の生命を奪い、十万人以上の仲間を国鉄から追い出し、今再び清算事業団一五〇〇名の仲間の首を切った政府・事業団・JR当局の蛮行を腹の底から弾劾し、闘い続けることである。事業団の仲間の首きりを声高に叫び、スト破り集団と化したJR総連をなにごんでも解体・一掃する決意を全組合員がうち固めることである。

われわれが、やむにやまれずうち抜いた八四時間ストに対する一切の「違法スト」呼ばわりを許さず、あらたに加えられようとしている不当処分策動を必ず粉碎しよう。

全組合員は、心機一転、決意もあらたに清算事業団の仲間と家族をガッチリと守り、清算事業団闘争勝利、原地原職奪還、九〇年代勝利にむけて、更に更に闘いぬこう。清算事業団十二名の不屈の闘いを全員のものとし、かならず奪いにかえそう。